

風流印字

●発行
(株)和歌山印刷所
〒640-8412 和歌山市狐島609-9
TEL.073-451-4111
FAX.073-452-2631

●発行年月日
2019年1月1日

あけましておめでとうございます。
和歌山印刷所、通称「わいん」です。
2019年も皆様のお役にたてるように取り組んでいきますので、気軽にご相談くださいね。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

旧年中は大変お世話になりました。おかげさまでわいんニュースレター「風流印字」も発刊から1年が経とうとしています。

2018年は冬季五輪にW杯、多くの異常気象等、話題に事欠かなかったように思います。かくいう弊社も9月の台風21号では約3日間停電し、協力会社の皆さまには大変お世話になりました。3日目の夕方、電気が復旧した瞬間には社員の誰からともなく拍手が起こり、文明のありがたさを痛感しました。

本年は本年で改元や消費税増税等が控えており、印刷会社としては目が離せません。4月末からの大型連休の影響も少なくないでしょう。2020年の東京五輪に関連したお仕事の話もあるかもしれません。2025年の大阪万博……は気が早すぎるでしょうか。

さて、これまで弊社の胸襟を開くべくニュースレターを刊行して参りました。地域の印刷会社はどんな場所で、どんな人がどんなことをしているのか。少しでも皆さまの興味を引くことが叶っていれば幸甚です。来月以降も皆さまの休憩のお供に是非ご活用ください。

弊社も2019年で創業72年目、人間で言えば間もなく後期高齢者ですが、若い企業に負けるつもりはありません。ベテランの経験知と、フレッシュマンの新しい考え方を融合させて、これからも経営理念の通り、「会社の永続的発達と、社員の物心両面の幸福を追求し、社会に必要とされる会社を目指し」で参りますので、本年も変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成31年1月1日
株式会社和歌山印刷所
代表取締役社長 小島 治



風流印字（ふうりゅういんじ）…「風流韻事」の造語。興味深い記事を書いた印刷物の意。

わいわい探検隊!



総務課長なおやんが
会社のインサイドを
レポートします!

⑩「KEEP OUT! 2階倉庫の穴!」

わいんの倉庫2階の床には穴が空いています。これは意図的に作られたもので、荷物を2階に上げる時に使います。

写真ではわかりづらいと思いますが、パレットより若干大きいだけの穴なんです。1階からその穴に向かってフォークリフトを使って上げていく技術は神業のようです。私自身、初めて見たときは商品を傷つけないかドキドキし、無事に2階に上げたときは拍手したのを覚えています。

普段はチェーンをして、絶対に近寄らないようにしています。荷物を運ぶエレベーターなどありませんので、この穴がとても役立っているんです。



印刷七転び八起き

ちびと印刷所で小断をひろう

題目 ユポ紙

年も明けた元日の朝、弥七は筆を執っていた。

喜八「あけましておめでとう！ おい、それは書き初めかい？」

弥七「うわっ！ びっくりした…急に声かけるんで、半紙が破れちまったよ」

喜八「すまねえ、すまねえ。そんなに驚くと思わなかったさ」

弥七「はあ…半紙は薄くて破れやすいから、かなわねえ。絶対に破れない紙つてねえもんかね？」

喜八「だったらこの紙、ちぎってみな」

弥七「ん…？ くぐぐ…駄目だ、切れ込みすら入らねえ」

喜八「そいつはユポ紙」つて、ポリプロピレンつて素材で作られた紙さ。刃物を使わな

きゃ切れねえよ」

弥七「なんでそんなもん持ち歩いてんだ…？」

喜八「更に耐水性も高いんで、外貼りのポスターとかにも使われんだ。雨にも風にも耐えられるんでな」

弥七「なんだかそのフレーズ聞いたことがあるような…」

喜八「『雨ニマケズ風ニマケズ』つてか」

弥七「でもそんな紙に印刷なんてできんのかい？」

喜八「できるさ。ただし、乾燥時間をたっぷりとつてやらない

といけねえがな。ところでさっき、書き初めて何書いて

たんだい？」

弥七「ああ、まあ将来の夢だな」

喜八「なら、このユポ紙に書くといい」

弥七「なんでだい？ 夢が叶うまじないかい？」

喜八「まあ願掛けみたいなもんさ。ちぎれねえ紙に夢を

描きゃあ、『夢破れることはねえ』からな」

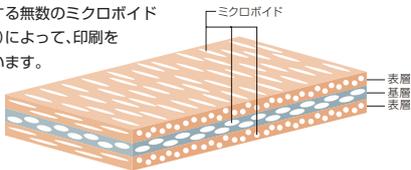
どうもお後がよろしいようで。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。



ユポ紙について

ユポ紙とは、ベースとなる基層を表層(ポリプロピレン)でラミネートした3層構造の合成紙です。基層によって強度を確保し、引き伸ばしたときに表層に発生する無数のマイクロボイド(微細な凸凹)によって、印刷を可能としています。



走れ、営業マン!!



人と人とのつながりに感謝

若林 保宏(取締役管理本部長:55歳)です!

現在は総務、人事及び経理全般である管理業務を兼務していますが、入社以来30有余年営業の仕事は続けています。

若い頃はそれこそ1日20件のお客様を訪問したり、時には新宮まで行ったりと文字通り走り回っていましたが、今はそこまでのハードな営業活動はしていません。

しかし年数を重ねてくる中で、お客様から新しい取引先様をご紹介いただいたり、新たに仕事をいただいたりと、人と人とのつながりの大切さに改めて気付かされる今日この頃です。



冬の最大の敵は…?!

津村 泰史(出力部次長:43歳)です!

昨年1月の私はと言えば、東京出張中に体調を崩してしまっていました。もうろうとする意識で和歌山に帰ってきた後、病院へ行きましたが、診断結果は案の定インフルエンザ。

家から追い出されるわ、仕事のスケジュールが遅れるわで踏んだり蹴ったりでした。唯一の救いは、病欠中に現場で頑張ってくれた部員達です。

ある意味、家族より温かく感じました(笑) 今年インフルエンザに感染しないよう、予防接種を受けて対策済みなので、年始から頑張っていくます!



和歌山印刷所ニュースレター・アンケートのコーナー

今回の記事で印象に残った記事などがありましたら下記のチェックボックスにチェックを入れ、感想をご記入の上で FAX を送っていただくとクオカード (500 円分) を抽選でプレゼントいたします。(FAX/073-452-2631)

新年のごあいさつ わいわい探検隊 印刷七転び八起き 走れ、営業マン!!

ご意見・ご感想等(御社名/ _____ 氏名/ _____)

編集後記

あけましておめでとうございます。営業職になって早くも2年が過ぎました。1年目は何もわからなかったのが、2年目には少しはわかるようになりましたが、やはりまだまだ至らないことを自覚する毎日です。入社した時は私が一番下で、先輩方の背中を追うばかりでした。それから1年経って、後輩がひとり入り、後ろを見る必要も出てきました。今年が営業3年目です。後ろを気にしつつ、前もしっかり見据えて、飛躍の1年にしていきます。

(編集長：橋原健太)